

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901153		
法人名	株式会社 ケアスピリット		
事業所名	グループホーム やすらぎ (1階棟・2階棟)		
所在地	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田426番地	Tel. 0947-42-8830	
自己評価作成日	令和06年01月15日	評価結果確定日	令和06年03月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel. 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年02月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(職員のアンケートより)
 スタッフと入居者様が固い信頼関係で結ばれている。常に気持ちに寄り添い入居者様を第一に考えている。毎日各居室、ホールは掃除清掃を行いご利用者が安心して生活ができるよう心掛けています。何か問題が起きたときはミーティングで話し合いひとつづつ解決している。利用者様に対する思いやりの姿勢で信頼を意識した対応やこまめなコミュニケーションができています。前向きな方が多く、自分なりの生活を身につけている。スタッフと利用者さんとのコミュニケーションを大切にしている。一人ひとりに寄り添いながら支援し、自立のお手伝いができるよう頑張っています。健康管理、安全面をアピールしたい。ゆとりたりの生活。スタッフ、利用者様との信頼関係が出来ている。家族のように近くに接して家で過ごしているかのようにされていること、常にこまめな声掛けを行って時間を重ねています。利用者様の願い事やしてほしいことなどできるだけ応じている。衛生面には特に気を付けている。一人一人が自由に過ごされているところ。ご利用者様との関係を大事にし、笑顔で過ごしている。ご利用者様とよく会話をしてスタッフも明るい。毎日の健康状態、安全性を保つように心掛けています。ご利用者様スタッフともに意見を共有し合い、一日一日を楽しくのんびりと過ごしている。普入居されていたご利用者のご家族が入居されていること、スタッフさんの入院されているご主人の入居の予約があることをアピールします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

{やすらぎ}は、田川市郊外の自然豊かな環境の中に小規模多機能ホーム併設で、20年前に開設したグループホームである。新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、毎週金曜日に利用者職員が、小規模多機能ホームに出かけてカラオケやマッサージを楽しみ、生きがいに繋がる支援に取り組んでいる。提携医療機関医師とホーム看護師、介護職員が連携し24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。食事は、調理専門の職員が旬の食材を使って作る美味しい料理を提供し、誕生日の手作りケーキ、行事食等、「食」を楽しめるように工夫している。誠実な職員がチーム介護に取り組み、職員は利用者寄り添い話しかけ、明るい笑顔の利用者を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族から高い評価を得ている、グループホーム「やすらぎ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人間らしく自然のままに地域とともに」の理念を掲げ毎朝全職員で唱和している。また、実践している介護に理念とずれがないか振り返っている。	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、職員は毎朝理念を唱和して意義や目的を理解している。園長や管理者、二人の主任を中心に、常に理念に沿った介護ができているかを確認し、「人間らしく、自然のままに、地域とともに」、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議は、三施設の内部の職員のみで行っていましたが令和5年5月新型コロナウイルス感染5類になりましたので、令和5年6月17日より外部の方に参加をお願いし、今後も事業所の活動報告を行い、要望や助言率直な意見を頂きサービスの向上を図っていきたいと思います。ごみ置き場の清掃は欠かすことなく行ってきました。地域の一員として。	近所のスーパーへ買い物に出かけたり、毎週金曜日には併設小規模多機能事業所に出向いて、カラオケやエステ、マッサージを楽しむ等、地域の方と交流を深めている。新新型コロナ5類移行に伴い、周辺の清掃活動に地域の一員として参加し、ボランティアや中学生の職場体験を受け入れて、楽しい時間を過ごすことを検討している。。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にはいつでも気軽に見学に来よう発信してきましたが5畳になったとはいえ触れ合いなど出来ていなく寂しく思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	三施設での運営推進会議では施設の利用状況、現状を地域包括支援センターの方に報告した議事録を持参した際に意見を聞き次の会議に生かしている。	運営推進会議は、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、薬剤師の参加を得て、2ヶ月毎に併設小規模多機能事業所と合同で開催し、ホーム運営や取り組み、利用状況等を報告し、参加委員から質問や意見、情報提供を受けて話し合い、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターからの情報はとても参考になり協力関係を築いてもらっている。特に、動画配信を視聴させていただき 高齢者の様々な問題等に気付かされたり、任意後見人制度や、養護者による高齢者虐待についてなどはミーティング資料に取り入れている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を説明し、情報交換しながら協力関係を築いている。管理者は、行政窓口を利用状況や事故等の報告を行い、介護の疑問点や困難事例を相談し、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一度の身体拘束・高齢者虐待に関わる研修のなかで職員の周知徹底を図り正しく理解できるように学び取り組んでいる。やすらぎは身体拘束は絶対にしないを守っている。	職員は申し送りの中で、気になった事や具体的な禁止行為の事例を話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護サービスを目指している。3ヶ月毎に職員研修を開催し、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一度の内部研修のなかで介護者にとって最も必要な視点、報道で明るみに出るような顕在化した高齢者虐待以外にも気付かれていないグレーゾーンが存在するという。そこに「不適切なケア」が行われないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用者に成年後見制度を活用している方がおられたが、現在は内部研修の中で学び、理解する機会を得ている。田川市地域包括支援センターの動画配信をミーティングに取り入れとてもわかりやすくスタッフも十分理解できた。	権利擁護の制度について、職員会議や内部研修の中で、学ぶ機会を設け、職員は理解を深めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には利用者や家族に分かり易く説明し、制度を活用できる支援に取り組んでいる。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退去時のことも含め十分な時間をかけて説明を行い、同意を得ている。また利用者と家族の自己決定権を最大限に尊重し、不安解消に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は確かに苦情があったが真摯に受けとめ話を十分に聞き対応してきたので現在はなくなった。しかしそれでもやはり苦情は私達にとっての大切な方向を示してくれるものなので小さな苦情でも聞き出すように努めている。	利用者が何でも言える雰囲気作りを心掛け、職員は意見や要望を聴き取り、家族面会時や電話等で、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、職員ミーティングの中で話し合い、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、手書きで温かみのある「やすらぎ便り」を家族に送付し、利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談、ミーティングを通して十分に聞く機会を設け、参考になる意見、提案は取り入れている。	毎月の定例職員ミーティングではホーム運営や業務について話し合い、カンファレンスや内部研修も行っている。ユニット毎に話し合う機会を別に設け、十分に話し合う時間を確保し、出された意見や提案は、出来ることからホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの長所を見出し評価することによって更なる向上心を持って働ける環境づくりに努めている。子育て中の女性職員が多く急な子供の休み対応は職員で助け合い協力している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって重視しているのは人柄や介護への情熱であり年齢や性別は全く問題にしていない。職員のそれぞれの長所がいかなるような環境づくりに努めている。	園長や管理者は、職員一人ひとりの能力や特技を把握しながら、生き生きと働けるよう役割分担を行い、働きやすい職場環境に取り組んでいる。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを重視している。産休、育休を取って復職する職員も多く、幅広い年齢の職員が助け合う関係の中で職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当苑の理念において第一に「人間らしく」を掲げており、人権、尊厳保持には最大限の配慮をしている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、職員ミーティング時の内部研修で繰り返し周知を図り、3ヶ月毎に外部講師を招いて研修を行い、人権教育に取り組んでいる。理念に、「人間らしく」「自然のままに」と掲げ、利用者を敬い、人権を尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月2回行っていたがコロナ禍で月1回になったので、今後は2回行いたい。又施設内でもリモートで行えるようになったので外部研修も行っていきたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流はできていないので、今後はサービスの質向上させていくためにも取り組みに努めなければならないと考えています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に実際に見学に来ていただき十分に納得して頂けるようお話しご本人が今何が不安で何が必要かを受容し出来るだけ本人の意向に添えられるような関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのお話でも困っていることや不安なこと等相談しやすい環境づくりを大切に、家族の意見、要望も最大限に尊重している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とは十分に話を聞く機会をもうけており「その時」必要な支援を見極め、必要なサービス対応に努めている。家族とはコロナ禍で面会を中止させて頂いていたが、現在は感染対策を十分に行い玄関での面会から、1階での談話室の面会対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物置みなど出来る範囲で利用者と一緒にいるが、本人を介護される一方の立場にいたりるときもある為、支えあう関係にもっと努めなければならないと考えます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会はコロナ禍で中止にしていたが現在は玄関でいいという家族の方は玄関で対応。なるべく会えなかった分を1回の談話室にて十分に話ができるよう家族には本人に安心感を与えられるような役割を担ってもらっている。現在の病状については手紙、電話、メールにて伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族には毎月、日々の利用者の生き生きとした生活場面を捉えて記入した「やすらぎ新聞」を日常生活や行事などの明るい笑顔の写真や文章を書き添え、また別に手紙にて報告を毎月家族に送っている。	新型コロナ5類移行に伴ない、併設小規模多機能ホームの利用者やボランティアとの交流で、利用者の楽しみとなっている。ホームに来訪しやすい雰囲気作りを心掛け、利用者の友人、知人、家族、親族の面会も多く、関係の継続に努め、家族の協力を得ながら、かかりつけ医の受診や馴染みの場所への外出等もコロナ状況を判断しながら支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は全職員が把握し趣味が合う利用者同士で会話をしたり、利用者の誕生日会を行ったり利用者同士が関わりささえられるよう支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前はサービスが終了しても面会やお見舞いを行っていた。コロナ禍で面会が禁止になった際は家族と連絡を取ったり病院に連絡したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを取り、思いや希望、意向を聞いてできるだけ本人の望む生活ができるように努めている。困難な場合は表情や発語をくみ取っている。	職員は、利用者が嫌なことは嫌と言える環境作りを心掛け、共に過ごす中でたくさん会話をして、利用者の思いや希望を聴き取り、日常介護に反映させている。意向表出が難しい利用者には、職員が利用者に優しく話しかけ、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いや意向を汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報は個人記録としてファイルし、担当者会議やミーティングを通じて全職員が把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの介護記録だけでなく「やすらぎ新聞」でその人の生き生きとした日常生活場面を引き出し注意深く一人ひとりの観察に努めている。又定期的に医師の往診や看護師による受診記録は個別に作成し心身状態も把握できている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、現在の心身状況を考慮しまずは本人の意向や希望を取り入れている。また、家族に要望や意見を聞き介護計画を作成している。モニタリングを随時行い、検討して次の介護計画に反映させる。	担当職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、意見や要望、気になる事等を聴き取り、担当者会議の中で検討し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の入退院等、状態変化があった場合には、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	内部研修や個人指導を行って、個別記録にケアの実践・結果、気づきや工夫を記入することが情報の共有と今後の計画の見直しに活かされるので責任を持って記入するよう指導している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が安定された利用者には小規模多機能型のサービスを受けられるよう支援したこともある。又アルツハイマーが重度化し毎日眠られているご利用者で食事は摂れていたのだが、段々摂れなくなり特別養護老人ホームに勤務する孫がいると聞き家族に相談し話し合いを重ねそのホームに移動が可能となり、毎日孫が食事介助を行い少しづつ食事が摂れてきたと家族からやすらぎの決断に喜んでいと連絡があり、スタッフ一同喜んでい		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食したり行事等はボランティアの力を借りて地域との関わりを行っていたが現在まだ5類になったとはいえ、むづかしい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族とよく話し合っ、決定しており2週間に1度往診してもらっている。また、かかりつけ医とは緊急の時でも対応してもらい必要な医療が受けられるよう関係を築いている。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診やホーム提携医による隔週毎の往診が受診できる医療体制が整っている。ホーム統括園長が看護師で、かかりつけ医、協力医、病院看護師、介護職員が連携しながら、24時間利用者の体調管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日看護師勤務しており不安なことがあれば何時でも24時間体制で看護師が利用者の体調管理を行っている。介護職員は利用者の心身状況を報告して適切なアドバイス指導を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や医療ソーシャルワーカーと連絡を密にし、病状の経過把握に努めている。やむを得ず入院が長期に及ぶ場合でも居室を空けて待っていることを利用者に伝え安心して治療が受けられるよう支援している。退院前は看護師とのカンファレンスを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る方針については本人・家族に説明し、理解を頂いている。本人・家族の意向に沿いつつできる限りの介護は行っていくが、それでも無理な状況になった時は医療機関にて必要な医療が受けられるように支援している。	ターミナルケアの方針について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら、主治医の意見を参考にして今後の方針を確認し、利用者の終末期が安心して過ごせる様に関係者と協力しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に2回消防署の協力で救命講習を受講し応急手当の知識、実践を身につけていたが現在は内部研修に避難訓練を行っている。また、事故発生時のマニュアルを作成し目につきやすい場所に貼っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署及び火災受信機等の担当者さんの協力で、通報・避難・消火訓練を実施していたがコロナ禍で内部でおこなっていたが令和5年より再開している。地域の消防団は何かあればすぐに駆けつけてくれる。水害や地震ではマニュアルを作成しハザードマップ等を利用し理解に努めている。	年2回避難訓練を消防署(年1回)や地域の消防団の協力と、併設小規模多機能ホーム職員との協力体制を整え、実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路や非常口、避難場所を確認し、利用者が安全に避難できる体制を整えている。また、災害時に備えて飲料水、非常食の備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を「人生の先輩」として最大限に敬意を表すよう指導を行っている。以前はどうしても毎日一緒にいると少し慣れ合いになって友達のような話し方になっていたが日々指導することで改善できている。	利用者一人ひとりの人権を守る介護の在り方を職員間で話し合い、接遇を兼ねた研修を定期的実施し、言葉遣いや対応について、職員間で注意し合うことを申し合わせている。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、園長や管理者が職員に説明し、情報が漏洩しないように周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の生活を自分で決定できるように主張しており自由意思を持って生活をしている。職員もそのことをよく理解し、受容している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での体操やレクリエーション行っているが参加は決して強制ではなく個人の好み、嗜好に合わせた個別ケアを重視している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみやおしゃれができる人には自分で行っていただいているが、できない人には職員ができない部分の支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用して季節感が味わえるよう工夫している。下膳できる方はして頂いたり、利用者と職員の関わりにて普通の暮らしができるよう工夫している。	利用者が楽しみにしている食事は、併設事業所の調理専門の職員が、旬の食材を取り入れて作る季節感溢れる美味しい料理を提供している。誕生日には、職員手作りのケーキや行事食の提供、簡単なおやつ作り等、食を楽しめるよう取り組んでいる。また、道の駅にソフトクリームやたこ焼きを食べに出かける等、利用者の気分転換にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランスは専門の調理師が調整して行っている。水分は3度の食事の他、10時、15時にはおやつをとって頂いている。個人で管理できない人には職員がよく観察して水分補給を声かけて促している。水分量もチェックを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最低食後3回は口腔ケアをしている。自分では自分で行っていただいている。できない人には能力に応じてできない部分の援助を行い必要な支援を行っている。又訪問歯科にて週1回全員口腔ケアを行っている。口腔ケアにはとても力を入れており、誤嚥性肺炎に気を付けている。また、心臓疾患のある方は特に口腔ケアは必須であることはスタッフも周知している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜トイレで自力で排泄できるよう支援している。また、利用者の意思を尊重してできない部分の援助に努め利用者が職員に頼みやすい雰囲気づくりにも努めている。なるべトイレにて排泄できるようトイレリハビリに特に力を入れている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行い、利用者が重度化しても職員2人体制で介助し、トイレで排泄ができる支援に取り組んでいる。夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減だけでなく、本人の快適さにも配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理師が工夫してメニューを考えており水分補給はどんどん勧めている。また、ケアチェック表において排便確認はしっかり行っている。便秘傾向の人については水分補給に努めている。又かかりつけ医に相談し、指示をもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっていない。又、順番を決めているので利用者みんなが納得の上で決めたことなので不平、不満は聞かれない。	入浴は利用者の希望や体調に配慮して、週3回を基本としているが、毎日入ることも可能である。入浴の順番を交代で決めて、湯船に浸かりながら、楽しく入浴出来るように支援している。入浴は、利用者職員が対面でゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、本音の話を聞き取っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思を尊重して部屋でゆっくりくつろぎたい人にはゆっくりくつろいでもらっている。また、部屋で気持ちよく眠れるよう部屋の空調・換気には日々、気を配り職員の意識を高めるように努めている。定期的に換気・消毒を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬のファイルや、受診記録ノートには常時目を通して。重要なことは申し送りノートに記し全職員が把握するようにしている。また、精神安定剤や入眠剤は使用せず、副作用なく安定した生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園内でカラオケをしたり、体操にて体を動かしたり、優しい歴史のクイズを作り、答えてもらったりして楽しんでいる。参加されない方も居室にて読書したりひとりの時間が好きな方にはその楽しみを尊重し、人それぞれ嗜好、楽しみに応じた支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は行えていないので寂しい思いをさせているがホール内で出来る楽しみ、1月はお正月の遊び、3月はお雛祭り、4月はお花見、6月はてるてる坊主作り、7月は七夕、8月はアイスやスイーツ作りをして、9月は敬老会、10月はスポーツ大会12月はクリスマス会、その他お誕生日会等。園内でもできる楽しい暮らし、普通の暮らしを支援している。	新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、コスモス畑や道の駅へのドライブ、普段行けないような場所への外出に取り組み、利用者の気分転換を図っていくことを検討している。近隣のスーパーへの買い物や病院受診後の外食等、個別での外出支援を行っている。また、きれいに整備された庭に出て日光浴を楽しんだり、ウッドデッキでお茶を飲む等、楽しい時間を過ごしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には自分で管理していただいているが、できない人は当苑の方で管理を行っている。月に1度銀行振込頂いている利用料の領収書とお小遣い帳のコピーを郵送している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当苑の電話を使用して頂いたり携帯電話を持っている方はその都度、取扱い方を支援している。自由にして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周辺は田んぼで囲まれており静かでのどかな環境で生活してもらっている。中庭には芝生のなかに桜の木を植えており花見の季節には利用者職員で花見を楽しんでいる。また、暖かく天気の良い日にはデッキでお茶を飲みながら歌ったりおしゃべりしたりして楽しんでいる。	建物内は全館バリアフリーを設置し、温度や湿度、音や照明、換気に配慮して、利用者が気持ちよく過ごせる環境を整えている。手入れの行き届いた中庭の桜を眺めながらデッキでお茶を飲むなど、四季を感じながら暮らすことのできる環境整備に取り組み、利用者一人ひとりがゆったりとした時間を楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはゆったりとくつろげるソファを設置してのんびりテレビを観たりうたた寝をされている。2ユニットが開放的で自由になっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族の写真又亡くなったご主人の写真や仏壇を置いて朝夕とお茶をあげられている。本人の使い慣れた家具、テレビ、嗜好品が置かれ居心地よく過ごせるようにしている。また、部屋の入口のドアに本人の好きな花の写真を飾っている。	利用者の馴染みの家具や仏壇、家族の写真、テレビ等を持ちこんで配置し、生活環境が急変しないように取り組み、利用者が安心できる空間作りを行っている。利用者の状態に合わせて動線を考慮したうえで、家族と話し合いながら家具等の設置を行っている。小まめに掃除、換気を行い、気持ち良く過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を解消し必要な所に手すりを設置し、ドアは開閉が楽な引き戸にしてバリアフリーな環境づくりに努めている。また、危険なものは目につく所には置かないよう配慮している。またホールに置いてあった量は外し安全を第一に工夫している。		